

中国の地名考察Ⅱ（西藏自治区①）

藤 島 範 孝

1. 西藏自治区の地名は蔵語音の漢語表記となっている。蔵語のའགྲུ་ལྷོ་ལྷོ་ལྷོ་ (竜王, 拉薩市内) などを用いることはない。日本では蔵音とおぼしき漢語に片仮名を当籤めて読むのが一般的である。時には平仮名で「りんしゅう」(林周, ལྷོ་ལྷོ་ལྷོ་ Lhü-nzhub) と読んだりするが例外のようである。日本製地図には一般にチョモランマと書き, 漢語で珠穆朗瑪峰と記入, 更にエベレスト山 (Everest) となっている蔵文は用いない。ཇོ་མོ་གླང་མ་は第3の女神の意の蔵語である。中国は康熙56年漢語で正式に朱母郎馬阿林と表記したが一般化していない。又, 尼泊爾^{ネパール}も独自に薩迦瑪塔と命名したが普及していない。西藏自治区内でも蔵語の漢語への転訛で同一地名なのに別表記となったりする。西藏自治区の西部にある昂仁^{アリン}県は嘉慶重修一統志(以下一統志)には章阿布林城とあり, 西域同文志(以下同文志)には凌宗とある。又の名が昂仁であった。いかなる表記を用いるかは時代変化, 殊に中国国家政策と深く関わっている。漢語表記を見て語意不明で原音との関係を知らぬ俛, 蔵語で発音する奇妙な地名教育を日本では長い間続けて来ている。然し現実としては漢語地名を見て, より近いと思われる日本語発音で, 蔵語らしき地名を読まざるをえない。同じことは新疆^{しんきょう}や内蒙古自治区でも起きている。ウイグル語やモンゴル語を漢語表記で読んでいるのが実情である。例えば新疆の庫爾喀喇烏蘇^{クールコラウス}や葉爾羌^{ヤルカ}, 烏里雅蘇台^{ウリヤスタイ}。内蒙古の土默特^{トムド}, 阿魯科爾沁^{アルホルチン}, 阿拉善厄魯特^{アルシャ}などがある。新疆や内蒙古の場合は機会を見るが, 西藏の場合は山野を跋渉した経験があるものの, 実景と地図上地名の照合が出来なかつ

中国の地名考察Ⅱ(西藏自治区①)(藤島)

たこともあって、(拙稿, 入蔵記) 茲では一般的な漢語表記地名と蔵音と蔵語の語源と蔵語に近い漢語音を列記する。対象の地名は県名(宗, 谿)を主として解明を試みて見ることにする。蔵語研究諸氏の西藏地名に関する見解を期待している。蔵語は周知の如く漢蔵語系のうち蔵緬語族に属し5つの支語系から構成されている。①蔵語支語蔵語は蔵語と門巴語と嘉戎語から成り②語彝支語蔵語は彝語, 僂僂語, 納西語, 拉祐語, 哈尼語から成り③緬語支語蔵語は阿昌語, 載瓦語から成り④景頗語支語蔵語は景頗語から成り⑤未定支語系蔵語は普米語, 怒語, 独竜語, 土家語, 白語, 羌語, 基諾語, 珞巴語, 僂語等から成立している。各れも蔵語系の少数民族と深くかかわり蔵語地名分布も広範に渉る。蔵語を支える蔵族(Zàng-蔵-といい、拉薩方言では ph ϕ ?45, pa43 でポエ・パと自称する民族を指す)。門巴 メンバ ménbā 語は門巴族語である。同じように珞巴 ロバ luòbā 語は珞巴語族。羌 チャン qiāng クマ xma33 語は羌語族。普米 プミ pǔmǐ ウイ u-iq-mi 語は普米語族。独竜 ドロン dúlóng 語は独竜語族。怒 ヌ nú 族は怒語(どご)族。彝 ノ nō ス su33, ロ lo ポ 1033, 1033.pho21. ラ la21, 1033.pa21. イ, yi 語の彝語族。僂僂 リス lisù 語の僂僂語族。納西 ナシ Nàxī ナシ nàxī メソ mōsō 語の納西語族(東巴 トン 文字をもっている)。哈尼 ハニ hānī 語の哈尼語族。拉祐 ラフ lāhù の拉祐語族。阿昌 アチャン āchāng 語の阿昌語族。白 ペイ péi ホ hō 白和 p ϕ 42, xo42, ベイツ péi 子 zǐ 白尼 bānī ペー pē 語の白語族。土家 トウチャ tōuchā ウツカ wūkkā 語の土家語族。景頗(チンポー・チンポ・カチンイエレン) ジンポー jīnpō ツイ tsui ポ pō ハントウ hāntōu 語の景頗語族(緬甸でカレンともう)等である。従って蔵語地名の分布域は、これら諸族の生活居住区、史的居住区と関係し西族自治区は勿論四川省, 青海省, 甘肅省, 雲南省と曾ての西康省に分布している。国境越えて尼泊爾 ネパール Nībōěr や不丹 ブータン Būdàn 緬甸 ビルマ Bǐlǔmǎ ミャンマー Mǐyǎnmǎ 錫金 シッキム Shǐjīnm 印度北東部などで蔵語が用いられている。漢語を併用している地域もある。蔵語は漢語同様の単音節語で声調も持つが漢語の語順には従わない。日本語などに似た語順もあるが全てではない。語法から見ると漢語圏や阿爾泰語圏とは異なる蔵語文化圏をもっている。蔵語と蔵文が制定されたのは6世紀末か7世紀初め srong-btsan-sgam-po ソンツェ Sòngzǐpō の命令によっ

中国の地名考察Ⅱ(西藏自治区①)(藤島)

て宰相の Tumisan-bho-ta ^{トウミサ}_{ムボダ} の印度帰国語と謂い si-tu 文典に據ると西藏文字の形体は Nāgara ^{ナガラ}_{ナガリ} 文字を模したもので、楷書は Gsab サブというウチエン Dbu-can, 字体はレンツァ Lañ-tsa という尼泊爾梵字と K'a-C'-eyi-ge ^{カチエイゲ}_{カシミール} 文字を模したもので、行書体は Gšar シャルという Dbu-med ウメは War-tu ワルト文字に一致せしめたものという。その後民族の移動などで自然語, 通俗語 ^{ランケエ}_{ベエクエ} Rangskad と正則語, 法語 ^{ケエタクパ}_{チウケエ} sk-ad-dag-pa ^{ミン}_{Cosskad} に分かれた。これらの語 ^{ミン} は地域に分かれ中央部のラサ語, 衛 ^{ユイ}_{ウエイ} 語, 前藏 ^{チエン} 語, 藏 ^{ツァン} 語, 後藏 ^{ホウ}_{ツァン} 語, 更に安多青海 ^{アムド}_{チンハイ} 地方語, 喀木 ^{カム}_{シカ} 西康地方語, 阿里 ^{アリ} 地方語に区分できる。時には蒙古語と僜語, 傣語, 苗語系などと地名としては重複する。蔵語と漢語の語源関係については従来より多くの言語的研究があるので地名の究明から除く。ともかく両語の間に共通性があることは事実であり, 現状では蔵語地名が漢字表現をとっている事の把握が茲では問題とし解明し日本語式読み方の定着を考察することとする。蔵語と漢語地名の関係は長い歴史の中で特有の表現慣習ができてきた。蔵語の太陽は NyimaLung と発音するが, 漢語では尼瑪隆, 尼瑪, 尼馬, 尼麻と表示している。同じように冬季草原, 冬季山麓のこを G'unLa と謂うが漢語では袞拉, 根, 更, 棍と訳語を当てている。夏湟河は YarngainQu と謂い, 漢語で夏季, 呀, 雅, 牙と表示している。塩湖は Rigainpün-po だが日干配錯を当てた。晴天の内に山のよう積んだ塩の意を含んだ。錯は湖である。黒色の湖を NagdongCo といひ, 黒色を強め漢語では那洞錯を用いている。湖としては瑪旁雍錯

マバユムツォ・	マナサルワ湖,	阿耕達地(梵語)	むねつのうち	や羊卓雍錯
MapamYumco.	無能勝母湖,	アノクタッチAnavatapta	無熱腦池	
ヤムゾユムツォ・	ヤムドロク	バンゴンツォ	ピエンクオンツォ	拉昂錯
YambzhoYumco,	牙木魯克	BangongCo	BaingoinCo.	

ランガツォ・拉噶池・蘭戛錯 ^{ミン} の漢語を当てている。黄色の洲をもつ湖。湖中へ突出している岬のある湖を蔵語で SérlingCo と発音し, 漢語で色林錯としている。最も暗い湖は CoHointor で漢語で錯晃東としている。斜面に溝(谷間)のある湖 CoLungyo は錯隴涌を当てた。円い形の湖 CoGor を錯果と

した。囲いのある湖も錯果を用いている。火口湖も指している。数万といわれる湖沼名には未知のものが多い。四方から山の中へ入れる道(九口)を Guqênda といい漢語で古欽達としている。古は九。更に谷, 各, 戈, 格の訳語にも用いた。九口は九天 jǐxiāo にも通じた。蓮の花のある堤(蓮花壩)を Baimatang といい, 漢語地名としては白馬塘としている。別に白瑪, 斑馬, 巴馬とも訳した。蔵語の蓮花が漢語の白馬となる。虎穴のある山口(登山路, 但し生活路)を DagcangLa といい打章拉としている。打は虎。更に達, 大とも訳した。金免の大鳥を Sêrkanggagên といい, 漢語で賽崗加欽の地名を当てている。賽は金, 更に賽日, 賽爾とも用いた。温泉川を Qucainsang といい, 漢語で曲灿桑とした。曲灿が温泉である。こうして普通名詞になっているものもあるが他に固有名詞の漢語訳の慣習もあった。山を日。山の峰, 山頂を日則。雪山を崗日。山入口(山口)を拉。溝, 水路を隆, 隆巴。河を曲。江を蔵布。湖を錯。泉を瓊果。灘を塘。水河(泳川)を恰絨。寺廟を貢巴と表記。北の方で長く青草の生えている山は QangringngoinzaRi で, 強仁温雅日とした。羊の角 yángjiǎo のように弯曲している雪山 Anwêkangri を阿維崗日と表記した。崗日が雪山である。傘の形をした峰 DugRizê は杜日則とした。日則が山の峰である。黒い岩のある山の入口は PagnagLa といい。漢語で帕那拉とした。拉は山口を指す。大きい河のある谷(大川溝)を方言であるにかかわらず桑隆とした。蔵語では SangLung (方言) という。隆は溝(渠)である。漢語の一定の法則は方言にも及んでいる。塩路の溝(谷間)は CalamLunagba という。漢語で查朗隆巴とした。隆巴は溝である。尖った岩のある河 pagsaiQu は巴索曲を当てた。曲は河。奶茶 ナイチャ nǎichá 色した河(江)。奶茶は固形磚茶。山羊, 羊馬の乳で煮出し茶をいう。奶は本来嬾である。嬾茶色をした河 QagarZangbo という。漢語は恰嘎蔵布と表記した。なお, 漢語の蔵は「藏」を今も用いている。多くの岩盤から湧水する泉は Cêrmang Qungo という。采芒瓊果と表記した。瓊果は泉である。幸福の灘

(中洲)はDêgyiTangといい徳吉塘とした。塘が灘である。藍色の氷河はNgomo Kyagromといい臥莫恰絨の漢地名を当てている。恰絨が氷河である。河の中洲(中間)にある寺QuwarGoinbaは曲瓦貢巴と表記した。寺廟則貢巴とは直ちに適訳と思わぬが他に表記方法がなかったものと見る。地方語の指摘をしたが、溝を地方によって絨(rong)普(pu)囊(Nang)と区分して表記した処もある。泉は一般に瓊果なのだが、曲米(Qumig)或は魯瑪(Lump)とした処もある。実際の地形は未確認である。渡船口(場)は蔵語(筏を抱いて渡る)は竹卡(chuka)と表記。牛皮(羊皮)船の出る渡し場GOsaを漢語で郭薩とした。蔵語は一般に固有名詞を前に、普通名刺を語尾におく組合わせが多い。時には逆に普通名詞を前にして、固有名詞を語尾に持って来て数量を表現することもある。南の方を流れる河をQuLhomaといい漢語で曲洛馬とした。紅色の河QuMarは曲朝爾としている。紅色土のある山口Lakammarは拉喀瑪とした。拉は山口である。漢字はもともと音節表意文字で、蔵文は拼音文字で当然同表記できない。蔵語の読音を中心に漢字に置き換えて、蔵語のra, ri, ngaの様な音については独自の造字を行った。蔵語の地方語にはしばしば造字が行われた。一方日本では漢語は表意文字と決めてかかっていることから蔵語地名の理解には無理があることは事実である。

2. 蔵語地名を漢語表示するために一定の規定を定めた。それは亦中国の国策の一環であるともとれる。これら蔵語地名を漢語表示しているのを見ていると、いくつかの類型に区分することができる。大区分としては地理的地名と歴史的地名と地域特徴地名の3類型がある。①地理的地名として、位置を示すものが多い。西藏全域を身体になぞらえて、人体の器官、体のどの部門に当るかを表現している。地域的には更に限定して人体の一部位置を地名とする習慣がある。口、頭、脳、鼻、背、腰などと併せて表現する。特に自然地理的な山容、地形、山水、雪山などの特徴と組合わせて地名としている。藏族の生活リズムは自然環境に共鳴するといわれている。

る。岔路, 岔口(三叉路, 追分) 山口, 山岔口(山あい入口), 漢語の山口 shānkǒu) は峠, 鞍部, 山間入口, 山谷, 登山路入口などで道の節目を表現している。地頭という漢語表現も多い。方言とおぼしき地方では当地, 地元と訳すが一般には田畑の一角。牧羊地の一部隅といった時に用いられている。谷間, 溝といった沖積地名や河川の合流, 落合地名が多い。西藏高原の特徴でもあろう。㊦ 相対位置を示すものに上下, 東西, 南北, 前後, 内外などがある。西藏自治区の1/10万図では上下地名が各200余ある。次いで山口などの口が150余ある。山岳地帯では入口, 出口路が重要な生活地名となる。羊群を率いて山口に入る例を良く見る。地名としては上地, 下方, 堡上, 路下(脚下)があるが, 各れも高度差を表している。嘉黎^{ラリ} Lhari 県の湖の中の突出部の岬を漢語で湖尖措乃というが, 蔵語では上方(より高い)の地となっている。昌都^{チャムド} Chamdo^{察木多} 県には牧草地に接して村落がある。蔵語で冬耐としているが, 漢意では牧場の角と訳している。

㊧ 山地, 山頂, 山麓, 山梁などの地名は米林^{メンリン} Mainling 昌都, 芒康^{マルカム} Markan, 洛隆^{ロロン} Lhorong 等の各県に多い。日旭とある地名は山麓村落, 扇状地村落が多い。山嶽地形と関連しては溝, 壩, 灘, 谷, 坪がある。昌都の曼普は蔵語の葉溝からの転音といわれ, 構内には葉草が多い。日土^{ルトツ} Rutog 県の次竜村落は漢意では牧溝で, 狭長い谷間の牧草地を指している。牧畑周辺貯水池を区切る堤(畔)を西藏では多くの地方で壩といっている。西南地方の盆地とは直接関係がない。仁布^{リンブン} Rinbung 県の帕當は小高い山をいうが, 実際の地形見ると中壩程度の堤で, それも自然堤防であった。仲巴^{ズオンバ・ズオンバ} Zhongba^{仲巴洛強} 県の日西は周辺の山が連山を形成したことから地名となった。一方では湖, 河, 泉などの地名が少い県である。地方語との関連もあるが県によって命名傾向が極端に異なっているのが特徴である。改則^{ゲルズエ, カイツォー} Gêrzê 県の茶錯は塩湖のことである。地中に塩層があり採塩している。貢覺^{ゴンジョ} Gonjo 県の愛玉は牛舎のある地。左貢^{ゾガン} zogang 県の科熱は破碎の意で氷河のクレバスを指す。

中国の地名考察Ⅱ(西藏自治区①)(藤島)

雪溪からの河が流下している。林芝^{ニンチ}_{Nyingchi} 県の仲果の尼羊曲は河谷地帯で、上流村落には霞が出て下から見えないので雲上霞蔚を漢語地名としている。昌都県の瓦村落は瓦の特産地であるが、青裸^{チン}_{Chin}のことを指している。錯那^{ツオナ}_{Cona} 県の年扎は羊と採塩できる土地の意味が資められている。

③西藏では名扎といった人工堡壘、院園、邸宅、構造物等建築物も地名となる。那曲^{ナツチュ}_{Nagqu} 県の衣里希竹は方形の庄園名であり乃東^{ネドン}_{Nedong} 県の発溪カの村落は刀形の庄園を指している。④歴史的地名には宗教に関する地名が多く難解である。史的地名俗に300(10万/1の地図)といわれる。

芒康^{マルカム・ジャンカ}_{Markam・江カ} 県の安貝西は漢語で脹鼓坡下と訳し、古代印度の僧人蓮花生大師が鼓を膨脹させ破ってしまった処と伝えられている。宗教関係者が地名として用いられるのは菩薩、活佛、尼姑、女神が多い。白朗^{ビエナン}_{Bainang} 県の巴金は蔵語で度母という女性菩薩を指している。丁青^{デンチュン}_{Dengqen} 県の董巴は石を叩く宗教行事の名称である。寺廟、宝塔、經典、袈裟、法輪等の仏教関係施設、仏具といった地名も多い。普蘭^{ブラン}_{Burang} 丁青、洛扎^{ロザ}_{Lhozag} 聶拉木^{ニヤラム}_{Nyalam} の各県に多い。祈祷小地名も残っている。拉薩の蔡覚林は長寿洲で、長寿を祈った洲で聖地の一つとなっている。各れの場合も蔵語意と漢語表示には内容的格差があるのは事実である。普蘭の董麻には赫面を意味する。古代蔵族の自稱でもあった。顔を赤く土で塗るのは防寒の意味もあったという。八宿^{バンソ}_{Baxoi} 県の杰巴は忘却の意で、文成公が入蔵した時途中の青蔵公路(せいぞうこうろ^{Qinggang Gonglu}・当時名称不明。今は青海省の西～茶カツアカ～香日徳ジャンリデ～格爾木ゴルムド～拉薩)の労苦を忘れようとした事が地名となる。文成公との関連では日月山^{じつげっさん}_{Riyueshan} も有名である(中央電子台で放送済)。西藏の解放以前は奴隷社会であり、反目者が各地で反乱があった。地主と小作の階層区分が一層社会を複雑にしていた。洛隆^{ロロン}_{Lhorong} 県の辻翁、洛扎^{ロザ}_{Lhozag} 県の達翁は各れも庄園領主を指す。農奴を持っている庄園は谿といい、地主は堆巴、安多哇、嘉戎哇と稱する農民を所有し谿卡(庄園)に所属させた。西藏自治区は3大谿といい

中国の地名考察Ⅱ(西藏自治区①)(藤島)

雄(官家)谿, 格(貴族)谿, 曲(寺)谿で3地主に據り分割されていた。農民の反乱で改革されれば扎囊^{ザナン}_{Zhanag} 県の羊加庄の如く改良(民主的)された土地となる。㊦地域的地名は藏族社会の構造を把握することが必要であるが、現状では十分な解明ができていない。中でも特徴あるもの2, 3掲げておく。定日^{ティンリ}_{Tingri} 県は古くから漢族との交流があり、漢語地名と蔵語の混合地域である。旧省名の西康には漢語地名が多くなっている。扎達の楚魯松杰は楚魯(山陰の村)松杰(3庄の中の村)が合併して村落地名となっている。日土^{ルトツ}_{Rutog} 県の烏江はもとの烏地方と江地方が合併してできたものである。烏は漢語で哦夷と書き中間の意だった。草原が枯れ牧民が江へ移転したので、烏→江へ移住し地名を烏江とした。又、漢族流の姓氏庄名も多い。村落は部落といい、他民族を種族と表現することが蔵語に多い。「本」の付く部落は藏族村, 「索」の付く部落は蒙古族部落を指す。巴青県の本索郷は蔵蒙の混在部落である。那曲県の達自郷は牧馬部落そのものを指す。山岳遊牧民を達自という。昌都県の波自郷の波自は波日という藏族莊園主の宗族名である。乃東県の才戈朋は刺樹堆のある処の意であるが、実際には刺樹はない。戈朋は藏族の1姓である。拉孜^{ラズエ}_{Lhazé} 県の蘇門は羨慕高位の宝庫という意味, これも藏族の宗族名である。尼木^{ニエモ・モンガルギャン}_{Nyémo・孟嘎} 県の吞巴はソンツエガンポの末裔の地, 藏族「本」の創始人吞米桑布扎の末裔の地である。各地の吞巴は各れかの末裔と関係がある。左貢県の俄壩郷の大脖子は首長のいる地方をいい, 貢噶^{ゴンガル}_{Gon-ggar} 県の谷介は思想発達していることで, この地方には聰名な人が多く棲んでいると解釈されている。以上の如く蔵語音地名と翻譯漢語音地名と日本語読みは多様多岐で十分な分析も現在はされていない。そこで, 西藏自治区の行政単位(地級6, 県級76, 市の県級1。地級1。市轄区1, 郷級936, 内訳街道8, 鎮31, 郷889。民族郷8の内, 内地(中国大陸)と同程度の県名呼稱について地名の読み方を列記してみようと思う。内郷以下は省き市轄区以上説明加えて見る。内地の地名解と同様各県の地誌を加えて地名録と

して見る。

3, 漢族は西藏自治区を西藏^{シーツァン}_{xizang} という蔵と略す。チベット人を蔵族という。一般に拉薩や日喀則を蔵といい、更に西方を西藏といっている。蔵族は西藏を5区分して、北東部の安多(青海)、東部遊牧の喀木(西康)、中央部の拉薩(衛・前蔵)、南部の穀倉蔵で後蔵、更に西部の阿里地区とする。古くは羌、戎の地で唐宋は吐蕃、元代は烏思^{ウス}、蔵^{ツァン}、納里速古魯孫の3区分、明代には烏思蔵^{ウスツァン}、朶甘の2都指揮使司と閩化^{せん}_か輔教などの王の地。清代になって衛^{ユイ}、蔵(後蔵)、喀木(康)阿里の四部を総称して西藏とした。西藏が用いられるのは康熙2年(1633)である。1965年自治区成立時の行政区域は衛、蔵、阿里、喀木の西半部が範囲であった。喀木は民国代西康であったが既に1955年に廢止。西康省は金沙江以東四川省甘孜藏族自治州へ入れ、その以西自治区の昌都^{チャムド}_{チャムド}地区へ併合した。清代には乍雅^{チャス}、察木多^{チャムド}、類伍齊^{レイウチ}、八宿^{バースト}の4大呼図克図^{フトクト}も併合している。金沙江東部の康カムの州都康定^{カンデイン}_{タルド}は蔵語でタルツェムは漢語でカンチンともいった。別に打箭爐^{タチン}_{エンル}とも音訳した。この地は打箭爐と裡塘^{リタ}、巴塘^{バタ}、徳格^{ゲグ}の4大土司(蔵族)の所属であったので自治区でなく四川省へ併入省管轄としたのである。土司政策は明代に溯り、四川、青海、甘肅はまさに土司国家であった。清代には金川の土司の反乱などあって民族政策の課題であった。反乱があると直ちに省管轄へと転回策をとっている。四川北無の蔵族は西蕃^{マンツ}_{蕃子}、巴直^{バツイウ}とし中央部の烏斯蔵^{ウスツァン}族とは一線を画している。又、東南部の松蕃一帯の西蕃語族を阿巴族と呼稱。北西部の芒康地方はJarag ジャルン語のなので芒康族といたりしている。四川西南に西昌(xichang)に木里語^{ムリ}を話す蔵族がいる。間西蕃といっている。雲南北部迪慶に蔵族が居住する。州都は中甸にある。漢族は古宗^{クツ}といい、四川からは蛮子^{マン}といわれている。門巴^{メンパ}_{メンパ}は錯那の勒布ロブ峽に集中している。珞巴^{ロツバ}_{luoba}は南部に分散している。漢語表記の地名用いる少数民族には羌がいる。唐初党項

中国の地名考察Ⅱ(西藏自治区①)(藤島)

ダング^トといい吐蕃支配下へ入った。(吐蕃の蕃は本来fánなのだが、国名でいう時はbōという。番はfānと発音する。)四川省の阿壩アワは羌の祖先であるともいわれている。この他寧蒭^{プズミ} ^{puzimi} や普米も漢語表記の地名を用いている。年代別に少し整理してみると元代になって西藏の地区分けが複雑になる。元の憲宗の時、川州に吐蕃宣慰司と都元師府をおいた。四川に碉門、魚通^{ぎょう}、黎雅^{れい} ^が、長河、西寧の宣撫司おく。烏斯蔵^{うし} ^{ぞう}に郡をおいて吐蕃の僧八思八^(パスバ・サキアバ派) ^(元代 第1代法王) を大宝法王帝師でしとしておき、領有させた。明洪武年間烏斯蔵に朶甘の2指揮司と宣慰司、招討司^{しやう} ^{しやう}、万戸付、千戸所をおく。永楽年間紅教の僧、宗喀巴^{ツオン} ^{カバ}が瓶寺院を甘巴^{ガン} ^{デン}寺といい、その信者を黄教徒とし、従来の紅教徒と袂別、継宗喀巴が起つと根敦珠巴^{ゲドゥ} ^{ジュバ}と呼び没後転生した嬰子に靈力移るといい、探がされた子が位を嗣ぐようになる。清に初めて内属する。従って西藏地名は正式には清代より漢語表示をとる。順治年間に西天大普自在仏を封じ、金冊、金印を賜与する。康熙、乾隆にしばしば反乱勃る。5回に渉る派兵、駐兵、のち駐蔵大臣おき西藏を4部に分割する。衛(えい)蔵(ぞう)喀木(カム)阿里(アリ)とし60余城を統轄。ダライラマ居地ラサのポタラ廟を前蔵とする。パンチェンラマ居地のシガツエのザルシルンポ廟を後蔵とした。喀木は康の音転訛。清末には喀木に川辺^{せん} ^{せん}弁事大事おいて所轄とする。民国は西康省をおきのちに四川省へ併合する。茲では西藏自治区の現行政を基本として記述して見ることにする。

4, ①ラサ, 拉薩, 拉萨, 喇薩, Lhasa, lāsà. 【行政】西藏自治区政府所在地。首府。7県1城関区管轄[〒]850000, 【位置】西藏自治区東南部。雅魯蔵布江^{ヤルンズアンボこう} ^{YarlungboJiang} 北岸。拉薩河^{ラサがわ} ^{LhasaHe} 中流。四川省打箭爐^{だせ} ^{だせ}の西南1,740km。N26.31°. E91.06°. 海拔3,650m。【面積人口】34,206km²。349,900人(市区12万, 農牧人口1,380人)【民族】蔵族, 漢族, 回族, 門巴族, 珞巴族。【地形】蔵南谷地。北高南低。納木錯^{ナムツオ} ^{ナムツオ}・テンダリ海^{テングリ} ^{テングリ}, チベット語^{チベット語} ^{チベット語} Namco・騰格里海^{騰格里} ^{騰格里}・「天の湖」の東, 念青唐古拉山^{ニエンチェンタンラさん} ^{Nyainqêntanglha}の南

中国の地名考察Ⅱ(西藏自治区①)(藤島)

から出る拉薩河がある。上流は米紀蔵布で西南へ流れ拉薩へ入り曲水に至る。蔵語は吉曲^{ギイ}_{チュ}といい「幸福の河」の意とされている。【気候】岡底斯山^{ガンデイさん}_{Gandisêshan}の風の寒波と暴風が激しい北部と印度洋の西南モンスーンの影響を受ける南部に分かれる。西藏では温和多雨地、5～9月雨季、他は乾季、年平均8℃。1月気温0℃以下。7月気温16℃。年降水450mm。降水集中期7、8、9月。【産業】電力、セメント、皮革、製薬(蔵薬)、製粉、青稞^{チン}_コ、【交通】西安、成都より航空。四川、青海への公路。【名勝古蹟】瑪布日^{マル}_{ポリ}山頂に松贊干布^{ソンツ}_{エガンボ}創建の布達拉宮^{ポタラキゅう}_{BodalaGong}、羅布林卡^{ロボリンカ}_{NorbuLingga}(達頼喇嘛の夏の宮殿、蔵語の羅布^{寶貝}_{Norbu}林卡^園_{Lingga})大昭寺^{だいしょうじ}_{Dazhaosi}、哲蛙寺、色拉寺、葉王寺、小昭寺、甘丹寺、唐番舅甥会盟碑がある。哲蛙、色拉、甘丹の各寺は黄教3大寺。【沿革】7世紀松贊干布聖地とし西藏統一。633年拉薩中心の強力な奴隷社会建てる。唐代は吐蕃(吐番)の都城で「邏婆(通典)」或は「邏些」(旧唐書・地理史)とある。市域を拉薩河が流れる。雅魯蔵布の支流。墨竹工卡^{メゾクンガル}_{Maizhoikhungar}より下流は筏を用い往来。拉薩河は古く吉特楚のち吉曲となる。(同文志、卷21)かつて渡省楽の名が付き対岸へ渡ること容易。但し一部天井河。納木錯は拉薩の北の当雄と班戈兩県の間にある。内陸湖で西藏第1(1,940km²)湖面海拔4,650m。納木は天、錯は湖、蒙古語で騰格里淖爾^{テン}_リとも騰格里Tenggerとも書く。清の光緒30年(1904)英軍ラサへ侵入駐兵する。【地名】熱薩が原形で邏婆、邏些と転写され文成公が釈迦牟尼金像を携えて入蔵し、仏事を広く興す意を資めて拉薩と改名したと伝えられる。仏地の意「拉薩とは西番語謂佛地也。番俗尚佛」蔵語の拉は敬奉つる。神崇奉の地という。佛(桑結)の地とする。薩は大地。松贊干布は大昭寺建堂。大昭寺の原形地(八角堂角)、山羊(蔵語「熱」)馱土(薩と同義の土)の地であり填湖があった湖畔に基建てる。これが熱薩であった。青木文教はLha-saと表記している。(西藏文化研究)

②ドオルンデチェン、堆竜徳慶、堆龍徳慶、堆竜徳庆、Duīlóngdéqing。

中国の地名考察Ⅱ(西藏自治区①)(藤島)

Doiungdêqên。〒851400【行政】拉薩地区，拉薩の管轄県の1（7県の1）県管轄1鎮11郷，県政府朗嘎^ナ南崗とも書く「天空」の意。【位置】西藏自治区の中部，拉薩市の西郊。拉薩市区より14km距たる。N29.37°。E91.01°。拉薩河と堆竜^ド河の合流地。【面積人口】2,467km²，32,608人（農牧31,507人）【民族】藏族31,668人（全人口98.6%）。漢，回，【地形】西北に高く東南に低い。西北は蔵北草原^{ぞうぼくこうげん} ZangbeiGanyuan（羌塘又は章塘という。蔵語で北法高地の意，岡底斯^{ガンデ}と崑崙，唐克拉^{タラ}山系の間にある。高度4500m，内流区域，氷河作用で湖沼盆地多い。納木錯^{ナム}が最大）に接する。東南は蔵南河谷（蔵南谷地^{ぞうなんこくち} zangnanGudi，蔵南山地ともいう。ヒマラヤ山脈と岡底期^{ガンデ}山脈の間，雅魯蔵布の上流地。高度3,000～4,000m。拉薩，日喀則の各平野含まれる。河谷幅300～500m，長さ1,200km）を結成。県境に念青唐古拉山が連山となって走向。2つの地形区に分かれ，西北の堆竜河周辺は高原にて気候条件凜しく半農半牧。東南は拉薩河の河谷。平地広大，農業区海拔4000m以上。【気候】年気温-7°。1月-2.3℃。7月12.2℃。年降水400mm。【産業】青稞^{チン}（小麦），油菜，鉛，銀，石炭，冬虫夏草（以下虫草）貝母（ばいも），麝香（ジャコウ），円根，核桃【交通】青蔵公路^{せいぞうこうろ} QingzangGonglu（青海省の西寧へ茶卡～香日徳^{シャン}～格爾木^{ゴド}～拉薩へ入る全長2100km）拉貢公路。【名勝古蹟】楚布寺喇嘛教噶拳派^{ゲル}邱桑温泉，雄巴拉曲泉水（治療水）古く朵隆。1960年東嘎^{トンガ}宗と柳梧^{リウ}宗と列島谿などが併合して堆竜徳慶県となった。宗は西藏政府がおいた行政区画，のちの県に当る。【地名】堆竜は蔵語の上部谷地。徳慶は蔵語の極楽，大安。上部谷地の極楽浄土の意。朗嘎^ナは天空。列島谿の「谿」は蔵語の谿卡といい庄園を指している。宗は県と同じとしたが，解放以前の地方行政機構で，蔵語では城塞の音訳。城塞のない処には宗はない。宗を統轄する官吏を定本と叫んだ。本は藏族の意。宗以下の行政区画を定と叫んだ。特に門巴族と藏族は行政機関を厳守した。独竜族の宗は解放以前の原始共産制社会を形成していた。

③ダムション・ダムチョン. 当雄, 當雄 Damxung 県名【行政】西藏自治区拉薩地区。拉薩市官轄の県(7県の1) 県管轄1鎮13郷。県政府公塘(かつて当雄卡^{ダムチ}_{ユカ}) 〒851500【位置】西藏自治区中部, 念青唐古山の山麓, 当雄草原地。拉薩市の北。N30.4°.E91.1°。【面積人口】970km²。32,825人(牧人81%, 295,420人)【民族】蔵族。【地形】山麓草原。南北両側山地。(綠色長廊といわれる) 中央を当曲(河)が横貫。草地3区分され①高山草区, ②谷地低地草区。③傾斜山腹草区。純牧区。平均海拔4,260m。【気候】気候条件劣悪。多雪, 強風, 雹等の自然災害起きやすい。年の内6ヶ月氷点下降雪。年気温1.1°C。1月-14.2°C。7月10.4°C。年降水586.5mm。無霜期87日。【産業】家畜54万頭, 魚(納木錯湖) 地熱, 虫草, 貝母, 牦牛^マ, 麝香^{じょう}, はなすげ薬材。熊, 西藏かもしか。野山羊, のろ【交通】青蔵公路, 拉薩, 那曲へ通ず【沿革】吐蕃王朝の倫欽陵が北侵の時の飲食地と軍事基地とし, 蔵兵の屯田を駐在させた。17世紀中頃より南侵蒙古族の和碩特^{ホシト}部固始汗の1族が牧地軍事基地とする。18世紀末清政府が屯兵の大本営おく。所謂「達木^{ダム}八旗」の地とする。駐蔵大臣の管轄とする。のち, 西地方政府噶厦地方を回収, 1959年民主改革行い羊八井^{ヤンバ}宗と寧中^{ニンズ}宗, 郭巴, 納木錯郭巴地方を併合して当雄県をおく。なお今も和碩^{ホシト}は巴音郭楞^{バイン}蒙古自治州(新疆維吾爾自治区)の北におかれている。博^{ボス}湖^{テン}湖んに近い。【地名】古くは達木, 裳雄, 達木牛(嘉慶会典事例), 当雄宗(民国の初め地方政治府として)がおかれた。達木は当雄とも書き蔵語では草灘の意。雄はもともと中央或は中部を指す。班戈^{ビエン}県の古い宗に青竜宗があり, 一時, 達木薩迦^{ダムサ}県^{キヤ}といったことがある。(1964年撤廢15世紀達頼証蒙古和碩特部の地として汗^{カン}選定の土地と謂っている)。草灘中部すなわち当雄の牧場なりという。蒙古族牧羊地の南限に属する。1説には当雄とは蔵語では泥濘を指すので泥濘灘の意とすべきという。但し, 泥濘は中央の一部を指したものである。

④リュンズフ林周 Lhüzhub【行政】西藏自治区拉薩市の管轄県。(7県

中国の地名考察Ⅱ(西藏自治区①)(藤島)

の1) 県管轄1区19郷。県政府甘丹曲果, 古くは旁多^{ポソ} 蔵語で「旁」は山谷。「多」は水, 山谷に水が溢れる処。更に古くは一時松盤に治所がおかれた事もある。〒852000 【位置】 西藏自治区中部, 拉薩市北東。蔵北草原に接す。N30.1°.E91.3°。【面積人口】 8,472km², 47,560人(農牧44795人) 【民族】 蔵族。【地形】 念青唐古拉山脈中, 拉尼山以北の高原地帯。当雄河, 熱振蔵河, 拉曲(河), 巴曲(河)の4大河が流れ, 53の支流が流れ込んでいる。地勢は北高南低。平均海拔4,200m。【気候】 年平均3.2°C。1月-9.5°C。7月13.0°C。無霜期65日。年降水287.6mm。旱天, 洪水, 雹, 霜等の自然災害に襲われる。【産業】 半農半牧, 高山草原。河畔水草, 牧羊地, 小麦, 青稞, 油菜, 綿羊, 多牦牛 【交通】 拉薩, 墨竹工卡, 堆竜徳慶への公路 【名勝古蹟】 熱振寺(11世紀建立熱振活沸か堪布放丈となり噶当教派の中心寺院となる) 【沿革】 7世紀この地に蘇毗村落形成。吐蕃滅亡後, 19世紀頃より封建領主の卓氏と瑪氏の両貴族の占拠地となる。元朝は達隴万戸の封地とする。明朝は五王の一人であった闡教王の下賜地とする。清朝は噶当教派を改宗した宗格魯教派則ち黄教を保護し, 格魯教派の支配地とさせる。のち, 林周, 旁多両宗を合併し林周とする。地方政府松盤より1975年旁多へ移し更に甘丹曲果へ治所をおく。かつて, 卡孜, 撒拉, 朗塘, 旁多などの宗に分けられていた。この時宗は堡を意味している。【地名】 古く冷竹宗(衛蔵通志)といい林周宗となる。清の一統志には倫珠布宗城とある。1960年旁宗, 撒拉, 朗塘, 卡孜などの谿を併合している。蔵語の任運天成或は順成の意の転訛という(同文志)。一統志の倫珠布宗は「西番語, 倫珠布とは順成之謂, 取年谷順成之意名城也」とある。従って周辺の地形変化を地名としたものである。

⑤メゾンクンガル, メゾクンガル, 墨竹工卡, Maizhokunggar 【行政】 西藏自治区拉薩市管轄県(7県の1), 県の管轄16郷鎮, 県政府工卡(クンガル) 〒850200 【位置】 西藏自治区中南部, 拉薩河中流。拉薩市以東79km。墨竹(メゾ)河左岸。N29.8°.E91.7°。【面積人口】 5,741km², 37,324

中国の地名考察Ⅱ(西藏自治区①)(藤島)

人(農牧人口36014人)【民族】藏族【地形】北高南低地形。河と湖の数多い。平均海拔3,800m。【気候】年平均5.4℃。1月-0.5℃。7月13.9℃。年降水614.7mm, 無霜255日。強風の日多い。雹がよく降る。【産業】農牧業, 木材, 青稞, 小麦, 豌豆, 円根, 油菜, 牦牛, 山羊, 綿羊, 隅肉すみ, 菜種【交通】, 拉薩, 林周への公路, 川蔵公路せんぞうこうろ chuanzangGongle (四川の成都~雅安~甘孜ガル ズェ~馬尼干戈マニガ マニガ~拉薩へ入る自動車路, 全長2,400km。古くは成都-雅安, 雅安-馬尼干戈-拉薩と分かれていたのを1954年つなぎ開通)【名勝古蹟】直貢堤寺(12世紀建立噶舉派ゲル ハの重要寺)【沿革】古名墨竹。止貢噶舉(噶舉派の1派)の所有地。13世紀達賴喇嘛の時に貴族だった夏札の封地となる。以後夏札の領地。この地古くから白教(噶舉派)栄える。13世紀噶舉派の代表寺院止貢梯寺建立される。清代は驛制の要道。1960年仁慶林リンチ ェンチ 谿, 烏斯江ウスギ ウシキ 谿を併合させ墨竹工卡県とする。古老富裕の地をスローガンに最近は八思巴ハスパ計画の西藏13万戸政策に則って止貢万戸と甲馬万戸に重点とした市場経済導入を図っている。【地名】一統志墨魯恭噶とある。「衛蔵通志」には墨竹工とある。墨竹の地名は墨竹普曲(河)から転訛という。墨は地方名を指し, 竹は緑色の意, 工は明亮をいうと伝えられている。従って明瞭的緑色墨地と訳したりする。明るい緑色, 美しい緑色とはいかなる色か説明が巧く出来ぬ。この地方は吐黒の悶瞿盧川なのだが, 直接訳とは関係がない。中国ではこの茅野峠に墨卡カ カなどと名付けて呼ぶが蔵語が難解なのであろう。佐藤長は「従青海湖到拉薩への路線」とあり(民族史訳文集巻6)「拉薩への道すがらの風景山水を地名にした」のではないかという。今もって適切な訳文がない。

⑥ダッズェ, ダグツェ, たつし, 達孜, 达孜, Dagzê。【行政】西藏自治区拉薩地区, 拉薩市の管轄県(7県の1), 自治区では最小規模県。県管轄9郷128村。県政府徳慶デジ ェン, 〒850100【位置】西藏自治区中南部, 拉薩市より23km東。拉薩東大門, N29.28°.E91.08°。【面積人口】1,321km², 23,234人, (農牧人口20,976人)【民族】藏族【地形】拉薩河西岸の狭長い

中国の地名考察Ⅱ(西藏自治区①)(藤島)

河谷平原地域。部分的に山間谷地となっている。高度3,720m。南高北低の地勢。【気候】高原温帯モンスーン気候区。年平均7.5℃。1月-28℃。7月14.6℃。年降水420mm。【産業】農牧業，家畜151,528頭，青稞，小麦，豌豆，円根，油菜，木材，隅肉。【交通】川蔵公路，拉薩大橋利用。【沿革】伝説に據ると松贊干布か，この地に頭且虎峰城と命名し，城塞を峰の上につくり「虎將把守，堅不可摧」といって兵家必争の地なることを説いた。明の初め達孜宗をおく。現在の4分の1の領域。のち，この地方の中心都市となる。清代の達孜県は8つの庄園に分かれ国庫庄園といわれた。西藏地方政府直接管理の穀倉であった。1960年邦雄^{ボト} 谿，拉木^{ラモ} 谿，卡徳慶^{カデチン} 谿など合併して達孜県となる。【地名】古くは打則，打孜を用いた。一統志には「第巴達匝城」とある。西藏地方政府は「得巴達古孜宗」を設けている。蔵語の達は虎，孜は山頂或は峰，「同文志18卷」には，「得巴達古則宗」としている。「西番語，得巴，頭目之謂。達古謂虎，則謂峰」山頂の岩が虎の形をしている。城寨が峰にあって指導者が居住しているという意と重なって達孜になったという。なお，徳慶の徳は安寧，慶は大きいので，大安の地，吉祥の地をいう。この地の甘丹^{ガンデン}寺は格慶^{グル}派の黄教の始祖地。宗喀巴の建てたもので，黄教三大寺の一つである。文革中毀されたのが再建しつつある。

⑦チュシュ，曲水，きよくすい，Qüzü 【行政】西藏自治区拉薩地区，拉薩市の管轄県（7県の1）県政府雪水，県管轄1鎮9郷〒850600 【位置】西藏自治区の中南部，拉薩市の西南60km。拉薩河と雅魯蔵布^{ヤルンツァンポ}江が県内で合流。N29.30°.E90.07°。【面積人口】1,647km²。26,187人（農牧人口24,592人）【民族】蔵族【地形】山地地形，西北に高く東南に低い。南は岡底期山系（5,000m），東に拉薩河，河岸沿い平坦，河谷地形と山谷部の組み合わせ。海拔3,620m。【気候】高原温帯モンスーン気候区，年気温6.8℃，1月-28℃，7月12℃，年降水400mm。【産業】農業主牧業従。青稞，小麦，円根，油菜，核桃【交通】拉薩，仁布，尼木，日喀則への公

中国の地名考察Ⅱ(西藏自治区①)(藤島)

路【沿革】古くは曲宿爾，曲墟，楚舒爾といった。衛蔵通志に曲水とある。同文志卷18に楚舒勤宗とあり「西番語，楚舒勤，水溝也。傍水建城」とある。楚或は曲は水で，広く河をいう。水は水溝で谷間水をいう。1960年協栄^{シツ}，聶当^{ニツ}谿，色谿，南木，協仲などの谿と合併して曲水県とする。

【地名】もともと大貴族采色の地，曲水と稱し用水に恵まれ肥沃な地であった。県南に古代の鉄索橋の遺跡があり穀物と人の往来が激しく行われていた。

⑧ニェモ，尼木，Nyêmo【行政】西藏自治区拉薩地区，拉薩市の管轄県（7県の1），県管轄13郷，県政府塔栄^{タロ}（別に察絨^{タロ}とも書く）【位置】西藏自治区中部，拉薩市の西南部。N29.4°.E90.1°。【面積人口】41,93km²。25,841人（農牧人口24,836人）【民族】蔵族【地形】北高南低。尼木河兩岸河谷平野。地勢平坦。高度4000m以上は雪山，平均温度3800m。

【気候】比較的温和，年気温6.7℃。1月-4.0℃。7月15℃。年降水295.3mm。無霜期260日。【産業】農林業発達。麻江地区生産力ある。青稞，小麦，碗豆，油菜，菜種，隅肉，麻，木材【特産】吞春（吞達郷の蔵香），蔵靴。

【交通】尼木麻江公路【沿革】吐蕃王朝期は烏如の管轄。9世紀後吐蕃支配下の貴族悉囊氏の治下となる。13世紀香万戸の勢力範囲，清代には西藏地方政府が宗をおく，塔栄^{タロ}のあった孟嘎^{モンガル}宗と麻江^{マルギ}宗を合併して尼木宗とする。【地名】尼木は古く聶摩或は聶母と表記した。1960年尼木宗を正式地名とする。尼木は蔵語で「頂端」或は「麦穂」のことをいう。「一統志」などでは後者を採っている。農業が主で牧畜業が副業となっている。従って麦穂を地名として採るのが一般的であるといわれる。

5. ①ナツチュ，ナグチュ，なきよく，那曲，Nagqu，県名，地区名，鎮名，納曲とも書く。【行政】西藏自治区那曲地区10県管轄，那曲県は1区1鎮18郷156村と2つの村級居委会を管轄。地区政府及び県政府は那曲鎮，〒852000。【位置】西藏自治区中北部，念青唐古拉の北麓，羌塘草原中部（蔵北草原）N31.29°.E92.04°。【面積人口】16,305km²，61,756人（農牧47,702人，77.24%）【民族】蔵族，那曲鎮と地直，県諸機関に300人の

中国の地名考察Ⅱ(西藏自治区①)(藤島)

漢族(全体5%),回族,門巴,納西,土,苗,布依の少数民族居住。【地形】内陸型河川(海口持っていない)高原盆地,南部高く北部低平。西,南,北の3面特く高い。東部山低い。中央盆地形成。平均高度4,500m。南は念青唐古拉山脈,桑丹康山は神山とされている。怒江どころ・瀾江サルウィン
NuJiang 全長3200kmは西北東に向かい県内流下。南部の桑曲は拉薩河の源流の1つである。【気候】高山厳寒気候,年平均-19℃。1月-13.8℃。7月8.8℃。年降水406.9mm【産業】純牧業区,草原広大,畜産品豊富,牦牛。藏系緬羊。山羊,青稞,地熱発電(365箇所),風力資源。【沿革】旧石器代遺跡ある。藏族発祥の地の1。古くは蘇毗村落,松贊干布の孫波加が統轄していた。吐蕃と唐の兵糧運搬路,唐宗以来主要交通路,藏北畜産物製品集散地。1942年西藏地方政府絳曲基巧をおき藏北の総官とする。1951年中国軍進駐。1959年那曲人民政府設立。那曲行署おく。藏北の政経文化の中心。毎年8月藏北民劇伝統的馬物交流競技大会が開催される。「衛藏通志」には哈拉烏蘇とある。「嘉慶会典事例」には喀刺烏蘇とある。【地名】旧名を那曲毗,西藏地方政府は納曲宗に改めてのち黒河宗とする。那曲は藏語の黒河,怒江の水面が藍黒色に見えるからという。1960年黒河宗と恩果を併合し黒河県とする。1965年那曲県と改める。西藏羚羊れいよう,狐,旱獭かんたつなどの野生動物や麝香,貝母ばいも,虫夏の特産地として知られる。巴青バチンや申扎シエンなどもかつて県内地。可可西里オフシル可可稀立山
Hohxilshan.と唐古拉と念青唐古拉山の間にある。高度4,500m。湖の中で奇林錯シリソが知られる。青藏自動路が通っている。

②ビェンクオン,バインゴイン,ばんか,班戈, Baingoin。【行政】西藏自治区那曲地区,那曲に属する9県の1,県は1区18郷133村を統轄する。県政府は普保。〒852000。【位置】西藏自治区の中央部,岡底斯山ガンディセさん,藏語「衆山の主」主峰岡仁並齊カンリンポチエ,古くカンチーセKang'Tiese.マウントカイラス.
Gangdisêshan. 藏語雪の宝物普蘭プランの瑪旁雍錯覚マバユムツォの北。(カイラス-英名)と念青唐古拉山の間に位置する。青海,新疆両省区に隣接する。N31.22°.N90.01°。【面積人口】29,600km²。25,571人(農牧人口23,885人)【民族】

中国の地名考察Ⅱ(西藏自治区①)(藤島)

蔵族, 少数の漢族, 土族, 満族, 蒙族居住。【地形】平均高度4,700m。蔵北構造線の以東で, 高原上の陥没盆地。県周辺に山が多い。特に杜魯山, 朗究山, 卡絶山, 交唐瑪約山, 麦多山, 熱干巴体山, 本依山, 南宗山, 安第山等50余山知られる。南部の念青唐古拉山の主峰は7,100m。河川数20, 各れも内陸型, 中でも扎加蔵布(河)が知られる。湖沼は40を越す。南部の納木錯は西藏第1の規模をもつ。塩湖として中国第2。総面積1,949km²。水深約30m, 湖面高度4,718m。最も高地湖といわる。【気候】気候変化激し。寒冷地。冬季間8ヶ月。年気温-1.2℃。1月-11.3℃。7月8.3℃。年降雪90日。夏季雷雨, 雹ある。年降水308.3mm。【産業】西藏羚羊, 野生馬, 熊, 猓^{しや}, 野生羊, 狐, 薬材。【沿革】古く東部は蘇毗村落, 西は象雄。松贊干布の時に孫波如に属させる。以後朗如村落, 明清代は納倉4村落の1つ。西藏地方政府は茲に噶本管理の各村落おく。のち, 江隆宗となる。1942年納木基巧の管轄となる。1959年8月班戈県人民政府を平叛改革中に設立する。1959年もとの達木迦^{グムサキヤ}(前の青竜宗)を併合して班戈扎とする1960年更に朗如宗の西南部と新格爾宗をとり入れ班戈県広充する。1978年扎加蔵布以北の地区と色哇区を併入れし, 一方双湖弁事外域を分離する。(後述)【地名】班戈は班戈湖(錯)名より転用。蔵語では胸腔(xiōngtáng)湖の意。然し本来は吉祥保護神(のいる)湖の意だったといわれる。最近, 砂金, 銅, などの鉱産物が産出することでも知られはじめた。なお, 普保は山溝, 山谷を意味している。

③ニマ, 尼瑪, Nyêma【行政】西藏自治区那曲地区, 9県の1, 1983年10月国務院が尼瑪県設立認める。班戈と申扎両県の一部を合わせ尼瑪行政区域設ける。県政府塔栄別名を塔絨⁷852600, 【位置】西藏自治区中部。阿達錯の北部, 唐古拉山系の南麓。N31.8°.E87.8°。【人口民族】2.3万人。蔵族, 【地形】高原丘陵地。但し村落の多くは高原平坦地に立地。南部と北部は山系。河川湖沼が多い。【気候】高原亜寒帯モンスーン気候区。1月-15℃。7月10℃。年平均200mm。【産業】農牧業, 緬羊, 牦牛, 野驢,

中国の地名考察Ⅱ(西藏自治区①)(藤島)

野羊，食塩，硼砂。【交通】那曲への公路と獅子河（獅泉河）

センゲズアンボ。藏語獅子口，ガルズアボと合流，噶爾河へ出る。【沿革】班戈と申扎両県
sêggeZangbo,インダス河。

一部の併合，藏語で尼瑪は太陽の意。Nyimaとも書く，〒852600，治所の塔榮はますますさかんになることを願う意がある。

④アムド，安多，Amdo. 【行政】西藏自治区那曲地区9県の1，県の管轄2区17郷134村，県政府は帕那_{パナ}におく。【位置】西藏自治区北部，唐古拉の両側。世界の屋根といわれる。高度4,800m。唐古拉山_{ダングラ} (Danglashan) は藏語で高原の山。青海と西藏の辺境にあり南東へ延び横断山脈_{おうだんさんみやく} HengduanShanmai に接する。怒江及び瀾滄の源をなす。県内に60余山ある。長江源流の格拉丹は冬大雪と謂われる。季節性河川である。湖泊多い扎加蔵布がこの地最大である。なお北部の布曲河も長江源流となっている。N32°。E91°。【気候】高原亜寒帯モンスーン気候。冷涼厳寒。冬長く夏なし。年平均-3℃。1月-15℃。7月7.7℃。降水量411.6mm。年中多風強風。【交通】青蔵自動路通る。阿里，那曲，聶榮へ公路【産業】純牧畜地，牦毛，山羊，緬羊，馬，野牛，黄羊，羚羊_{れいよう} 【沿革】古く外象雄の地。定住者少い。14世紀江措村落形成。以後8つの村落ができ安多8村落といわれた。5世達頼，7世達頼が安多8村落の首長鉄券に領地管轄させる。後世襲となり平叛改革の直前に，黒河宗の管轄下に入る。1959年安多人民政府成立。那曲行署の管轄下に入る。1960年黒河宗の北部と朗如宗の東北を合併し安多県に編入させる。【地名】安多は藏語で山間部の意。安は末尾を指し，多は岔口（別れ道入口）で，山裾の追分をいう。なお，治所の帕那は黒岩の意である。

⑤ニエンロン，ニエンロン 聶榮，眞榮 Nyainrong 【行政】西藏自治区那曲地区9県の1。県の管轄1区13郷166村。県政府色貢_{セル}。(藏語の「全房」の意) 〒853500 【位置】西藏自治区北部，唐古拉山系南麓，怒江の上流，安多錯の東部。下曲卡曲_{シセツチュ} ヌカチュの流域，青海省に隣接する。N 32.1° .E92.2°。【面積人口】10,258km²。22,775人。(牧人口21,432人) 【民

中国の地名考察Ⅱ(西藏自治区①)(藤島)

族】蔵族，少数の漢族がいる。【地形】地勢は西北に高く東南に低い。高度4,600m，県内起伏が多いが高原平地もつくる。唐古拉の山系北部で，強風寒風が雪峰より凜となる。支脈に属するが果尼山，隴賽扎查瑪山，拖瑪日居山，拉迪日居山，達爾腰山が知られている。大小河川70余流ある。怒江或長江水系に属する。大多数は季節性河川。大小湖沼は30余り。温泉地が多い。【気候】高原亜寒帯モンスーン気候区。比較的湿潤。四季不分明。冬季8ヶ月。降雪激しい大風の日多い。昼夜温度差(日変化)大きい。年均気温-3℃。1月-25℃。7月15℃。年降水400mm。【産業】牧業，草原広大，高山草草原，牦牛，蔵系緬羊，山羊，馬，羊毛，牛肉，牛羊絨，皮革製品，蔵北野重要畜産品生産地。羚羊，野生羊，熊，のろと虫草，貝母などの薬材とれる。【沿革】2700年前は外象雄に属す。前4世紀に蘇毗村楽形成。吐蕃の時は孫波如によって統轄。元代は阿扎買馬。阿扎多馬。扎馬の3部を形成。明代は39族1族の地。明の中頃より蒙古の土默特旗トウムドキ TumdYouqi 即ち諳達アル部の遊牧地の1つとなった。喀爾喀村落といった。1732年西藏地方政府の管理下に入り，1752年駐蔵大臣が派遣されている。1942年聶栄宗できる当時は阿雜白索宗といった。1951年西藏解放後聶栄人民解放委員会。昌都チヤン・チャムド 察木多解放委員会第1弁事処管轄。1959年那曲行署に編入。1960年聶栄県人民政府設立。もとの聶栄宗の白日村落や，巴青バチエン Baqên 宗の土彭塔村落など併入する。【交通】那曲，巴青，比如，安多への公路ある。古くからの入蔵路。文成公入蔵の折青海の玉樹ぎょくじゅ Yushu を経て聶栄経由で拉薩に入った。旧西藏地方政府は聶栄駅をおいた。牦牛を交通の手段とした。解放後は那曲公路と唐古拉山麓の查吾拉に新に公路を設定した。【地名】蔵語の「聶」は良く聞こえることをいう。「栄」は河谷で，聶栄で音の良く聞こえる河谷をいう。別説によると羊群が石の形に見える河谷ともいわれる。

⑥バチエン，バチエン，巴青，Baqên【行政】西藏自治区那曲地区9県の1，巴青県では2区12郷162村を管轄，県政府は達爾唐ダルク (蔵語) で

中国の地名考察Ⅱ(西藏自治区①)(藤島)

は慈梨壩といい慈梨は野生の果実の名稱, 1975年巴青県の拉西堂よりこの地へ移す) 〒852100, 【位置】西藏自治区東北部, 青海省に接する。唐古拉山の南麓, 怒江の上流, 索曲^{ソグ}チユの流域。かつて雅安多といった。蔵語の雅安は恐ろしい事, 多は岔口, 交叉口で, 恐ろしい地形交差地を意味していた。N31.95°.E94.91°。【面積人口】10,301km²。27,816人。(牧業人口25,922人) 【民族】蔵族, 少数の漢族の機関関係者と職工がいる。【地形】蔵北高原と蔵東高山の狭い谷が結合した高原盆地。東と西と北の3面山岳。南部は低平。平均高度4,200m。県内高山多い。扎加山, 扎青山, 好日熱巴山, 雅安宗布, 拉則山, 崩查約日山, 諸布切杰山など唐古拉山の支脈なれど7,000m級の山地。主な河川に索曲, 蘇曲, 木曲, 巴青曲, 益曲, 拉瑪曲, 貢曲, 揚曲など30余の激流がある。殆どは怒江上流となる。夏季水量豊富。急流, 冬季涸川(氷結), 湖には嘉屋錯, 古索錯, 満錯, 加芒, 惹果雍錯, 錯欽瑪湖など高原湖がある。【気候】冬長短夏, 四季不明, 年気温1℃, 1月気温-10℃。7月気温11℃。比較的年較差小。日較差大。年降水550mm。6月~9月降雨集中。年中多風。【沿革】2700年以前古象国外象雄の一地方。前4世紀蘇毗村落, 吐蕃王朝代は中勇武部に属する。朗達瑪王後は尊多爾尼瑪竹扎が統治している。のち, 阿里地区の瓊布村落民がこの地へ移住定着した。元から清末県内の各部族は所謂霍爾39族に属している。明の中頃, 蒙族土默特部の喀爾喀爾部や碩特部の管轄下に入り分散したといわれる。清雍正10年西藏地区へ編入される。清朝派遣の霍爾加色を千戸総官としている。巴圭が総千戸の常年駐在地となる。乾隆15年駐在制やめ西藏大臣直接管理地となる。辛亥革命後, 西藏地方政府は霍爾基巧干比を設ける。1942年巴宗を都邁基の管轄とする。1951年昌都解放後昌都解放委員会の統治受ける。1959年9月人民政府をつくる。那曲地区へ入る。もとの尺牘宗村落の大部分と衛倉村落の一部と索県郡巴区の一部を巴青県へ編入させる。巴青の本村落の一部は聶栄県へ併合させる。治所は拉青唐とし, のち達爾唐へ移している。【地名】拉薩方言で今日では巴を

中国の地名考察Ⅱ(西藏自治区①)(藤島)

「查」と読んでいる。天幕を指す。青は大きい。巴青は大牦牛も入ることのできる大天幕をいう。【産業】牧畜が主。若干の農業、鹿、のろ、熊、旱獭かんたつの野生獣類と麝香、貝母、虫草などの薬材が採れる。

⑦ソッケン ソグ 索県 sogxian 【行政】西藏自治区那曲地区9県の1、県管轄1区1鎮11郷141村、県政府贊丹雪^{ゼンテン}（蔵語で菩提樹の下）〒852200 【位置】西藏自治区東北部、蔵北高原と蔵東山峡谷の結合地区、怒江上流の索曲^{ソグ}江の流域。N31.54° .E93.18°。【面積人口】5,892km²。27,679人（牧業人口26,483人）【民族】藏族【地形】唐古拉山南麓、西高東低の地勢、高度4,000m。西部は比較的広い高山草原。周辺は高山尖出。高山間に狭長い谷地形成。谷底と山頂の間は1000mを超える。高山として帕康烏則、布加崗、康斯莫宗、宗却山、亜拉山等がある。河川としては熱曲、益曲、索曲、嘎爾曲、蘇曲、赤曲がある各れも怒江系の河川支流である。【気候】比較的温涼。四季なし。年平均1.5℃、1月-9.9℃。7月11.2℃。年降水量572.9mm、年中多雨。年間70日大風。無霜30日~40日。年平均90日暴風。【産業】半農半牧、森林地帯多少ある。青稞、春小麦、豌豆、油菜、元根、土豆、牦牛、黄牛、犏牛、蔵系綿羊、山羊等。野生動物多い。雪鷄、馬鷄、虫草、貝母、黄芩、雪蓮花、麝香、鹿茸。鉱産物として石炭、硫磺、珠砂の産出あり。【交通】川蔵公路。拉薩、昌都、那曲へ往来できる。【名勝古蹟】寺廟49、贊丹寺、巍峨雄偉があつて小布達拉宮といわれ300年の歴史をもっている。【沿革】索には蒙古語、索曲（河）より転用。元朝代蒙古族の管轄域。当時索格という。元朝の時は索巴、軍巴、栄瑪の3村落形成。明の中期以降蒙古土默特と喀爾喀部の統轄となる。達賴5世の達賴谿卡（莊園）に入っている。清雍正以後駐蔵大臣の直接統治。辛亥革命後西藏地方政府の管轄となる。1942年宗をおく。1951年昌都解放後、昌都人民解放委員会の管理となる。蔵北草原東部の政治治動の中心地。1959年那曲地区索県となり、1960年正式に索県成立。【地名】清「嘉慶重修一統志」には索克宗城とあり、「衛蔵通志」には鎮庄子とある。もとは西藏政

府の索克宗から名称を付したとある。同文志卷18では索克宗「西番語索克草地也城傍濃干草」とあって地名となるとある。

⑧ビル, ひじょ, 比如, Biru。【行政】西藏自治区那曲地区9県の1, 県の管轄11郷176村。県政府比如雄^{ビル} (蔵語, 母牦牛のいる村落盆地) 〒852300, 【位置】西藏自治区東北部, 那曲河の下流。怒江の上流。N 31.29°.E93.47°。【面積人口】11,286km²。34,790人(牧業人口32,526人)【民族】蔵族, 少数の機関幹部と職工の漢族, 納西族, 土族, 蒙族, 門巴族の各族が居住。【地形】西から東へ向かい地勢傾斜。西部の高度4,400m, 東部の高度3,800m。圏内に5,000m以上雪山40余。達木業拉山, 邱中拉山, 夏拉山等知られる。怒江の支流として秋曲, 姐曲, 其曲がある。【気候】蔵北としては温和, 冬長短夏, 平均気温2℃。1月-25℃。7月23℃。冬春多雪。夏季雷多く雹が降る。西部は霜期なし, 東部は1箇月程の無霜期ある。年降水600mm。【産業】草原広大, 乾燥高山草原。牦牛主要家畜。黄牛, 犏牛, 緬羊, 山羊, 薬材として虫草, 貝母, 麝香。小麦, 青稞, 円根, 有獐, 鹿, 熊などがある。【交通】那曲への公路, 史的な入蔵路, 下秋卡という古い駅があった。文成公入蔵路, 固奸汗が拉薩へ南進した軍事路。【沿革】比如は蔵語で母牦牛(ヤク)の村落の意。古くから母牦牛集落があったと伝えられる。3000年前古象雄地。松贊干布^{ソンツェ}_{ガンポ}が中勇武部に統轄させる。宋代は納雪という。元代は青海蒙古族の管轄下。その後39族の1部族居住地。清初めから蒙古和碩特部の管轄に入っている。1750年駐蔵大臣直接統治。1914年色拉寺の属地。1942年比如宗をつくる。攝政達扎に属する。1950年昌都解放委員会の指導下に入っている。1951年11月比如宗人民解放委員会人民政府をつくる。1962年比如県人民政府誕生。昌都邁壩や自嘎も編入し比如県となる。もともとは麦地カの地区嘉梨に属させていた。のち, 比如県をおく。なお, 古い駅があった下秋卡は蔵語の劈山河口を訳している。【地名】比如の比は拉薩方言で「支」と読み牦牛をいう。村落としては両翼の翼に当る位置の村を「如」としている。従って, 牦牛のいる離

中国の地名考察Ⅱ(西藏自治区①)(藤島)

れた村落となる。古くは那雪比如宗であった。黒河下流の牦牛村落を指している。駅の下秋カは河岸を穿って流れる河をいう。蔵語の秋カは河口、「下」は劈山で河辺の崖をいっている。

⑨ラリ, 嘉黎, Lhari。【行政】西藏自治区那曲地区9県の1, 県管轄14郷122村。県政府は達馬, 達瑪とも書いた蔵語では杜鵑(ほととぎす)を指す。古くは阿扎に治所おいた。蔵語の方言では貯水池の前に小溪ありとしている。【位置】西藏自治区東南部。青蔵高原の周縁部。拉薩市東北部, 昌都の西750km, 雅魯蔵布江の支流の野貢蔵布^{イオンズ}_{ァンポ}の上流域, N30.4°.E 93.0°。【面積人口】地勢東南に向き西南に傾く。高度4500m低山丘陵と広大な盆地含む。ところどころに高山尖出。高山には拉里山, 魯貢拉山, 康嘎拉山, 杰拉山, 崗巴拉山等がある。各れも唐古拉山系の支脈にある。河川として代表するのは麦地蔵布江, 拉薩河の上流にある。この他烏蘇絨曲, 色絨蔵布, 哈仁曲等がある。湖では阿扎湖, 措拉湖, 彭措湖がある。【気候】高原亜寒帯モンスーン気候区。年較差大。年気温0.9°C。1月-11.9°C。7月8.2°C。年香水695.5mm。西北部寒冷, 冬春季節風に豪雪。蔵北の積雪地帯。四季分かれている。降水量あるところから蔵北の江南ともいう。【産業】牧業主, 尼屋区除いて純牧畜区。草原広大。牦牛中心, 蔵系綿羊, 山羊, 青稞, 冬小麦, 油菜, 豌豆, 桃, 核桃, 林檎, 薬材として虫草, 貝母, 黄芩, 雪蓮花, 麝香, 鹿茸, 熊胆など産していた。【交通】嘉黎は古戦場。中国内地との往来地。清は准噶爾之乱を平定後128名の縁官を派遣駐在させる。外務官員の食糧庫, 食糧務署において内地からの物資の供給地とした。食糧ターミナルであった。【沿革】6世紀に工布村落形成。7世紀吐蕃に帰属, 元代は13万戸中の直貢万戸。明末清に拉里寺に属す。古くは衛蔵の地である。1954年嘉黎宗設立。1951年7月昌都地区解放委員会。1956年昌都地区へ編入。のち, 第1弁事処。1959年7月23日の平叛改革中に嘉黎県人民政府(当時拉里)設立, 林芝専区へ併入する。1964年那曲地区へ。同時に比如県の麦地卡区や墨竹工卡県の色日絨区と巴嘎区,

中国の地名考察Ⅱ(西藏自治区①)(藤島)

雪巴の尼屋区など嘉黎へ併合する。【地名】衛蔵の地で拉日^ラ、拉里といった。西に拉里山があった。積雪と乱石の山の意である。嘉黎は蔵語で神山。嘉が神、黎は日と訳し山を謂う。「衛蔵通志」には拉里、「同文志卷18」には拉里とは「西番語神山なり、大山の名」とある。清代には兵営基地を設け、食糧庫をおいた重要な駅名としても用いている。

6. チャムド、昌都。Qamdo。ちゃんつう。県名、地区名。【行政】昌都地区(昌都県、類烏齊県、生達県、江達県、邊壩県、貢覺県、察雅県、芒康県、塩井県、碧土県、左貢県、八宿県、洛隆県、妥壩県、丁青県)昌都県は1区、1鎮、15郷、259村、10居民委員会を管轄。〒854000。

【位置】西藏自治区東部。青蔵高原南東。北は青海玉樹^{ぎょくじゅ} 蔵族自治州と玉樹に接する。俗に「東走四川」「南達雲南」「西至西藏」「北通青海」の地と謂う。別に滇川蔵三界の地とも謂う。横断山脈の北部に位置する。察雅^{チャグ} 県の西北225km。N30°~32.4°。E96.5°~97.9°。【面積人口】10,709km²、人口78,231人(農牧人口58,253人)(都市人口4,374人)【民族】蔵族90%【地形】蔵東高山と溪谷地帯。平均海拔4,000m。山脈と河川各れも南降し並行する。主な山脈に伯舒拉嶺、怒山、寧静山嶺がある。河川には雜曲河、昂曲河、色曲河と合流する瀾滄江がある。他に金沙江、怒江の大河川がある。三河(雜曲、昂曲、色曲)は農業区、東部で牧業。一谷(瀾滄谷)は農業区、下流では森林区(中国領内)地方という表現もある。

【気候】半乾燥気候帯。年平均7.6℃。1月-2.3℃。7月16.3℃。年降水467mm。無霜120日。【沿革】新石器代(4,000年前)の居住遺跡残っている。隋大東女国の一部。唐代は吐蕃。元代は葉蕃等の路宣慰使司である都元師府の管轄地区となる。明代は大宝法王の統治地。清末に昌都県とする。もともと喇嘛教の大活仏呼図克^{フクト}の駐在聖地。4大呼図克の1つ。呼図克とは清朝が蒙古と西藏の大領主へ下賜した称号。この地の活仏は明の建武帝の転生と伝えられる。(未完)